

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	長岡市内で複数の診療所や介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペースわいが家を併設し機能訓練や足湯ができる環境があると共に地域住民との交流の場にもなっている。隣接地には診療所や複数の介護施設もあり緊密な連携が図れている。日々笑って過ごして頂けるよう個別の対応に重点を置いています。
事業所名	プラット新町	管理者	遠藤 豊		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	1人	0人	1人	1人	1人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			●細かく記載されておりいろいろな意見が出されたことが伺える●改善計画も皆の意見が反映され具体的に挙げられているので良い●今回の意見が今後の方向性と位置づけられる。情報共有し取り組んでいけたらよい	●年度当初に外部評価における工程表を作成。計画的に各評価を実施する。また、事業所自己評価に対し、全員が全項目に対し根拠を持って記入できるよう学習会を充実させる。
B. 事業所のしつらえ・環境			●玄関部分は入りやすくなっているが人が居ないときは分かりづらいかもしれない。表示し分かり易くするといい●ソファ、ベレットストープがあり家に近い雰囲気●音や臭いは気にならない。●日中は施錠されていない	●玄関内2ヵ所とわいが家内に案内表示を設置する ●まちの駅の役割りを理解してもらうために回覧板を利用し、気軽に立ち寄って頂けるよう周知に努める (情報提供、相談窓口の役割り等)
C. 事業所と地域のかかわり			●元気に挨拶できている●事業所の中身を具体的に知っている人は少ないのかも●実際に地域の人からの直接の相談は少ない●町内の行事やイベントは少なく事業所側から出向くことは少ない	●法人広報誌や地域の回覧板を利用し地域への周知を図っていく。 ●オレンジカフェへ利用者と共に参加し交流を深めると共に周知を図っていく。●わいが家にて利用者作品展を開催し来場者に周知を図る
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			●個別のニーズに合わせて対応している●エコマップ的な視点で但し書きで記入されるといい●地域の方との情報交換や共有はできている●包括へのボタンタッチも大切な役割り。包括との連携が今後の努力目標かと思います	●包括支援センター、民生委員等、関係機関との情報交換を行い連携を図ります。 ●様々な場面において積極的に挨拶を行い情報収集や関係構築に努めます。
E. 運営推進会議を活かした取組み			●分かりやすくなっている。前回の事例等も聞いて良い●ヒヤリハットも含め今後の方向性が明確になっているので良い●運営推進会議は事例検討をする場なのか？個人情報もある。地域とどう関わっていくかがポイントだと思う。	●地域で心配な方の情報を得た場合は速やかに包括支援センターへ報告する。また、情報提供をしやすい事業所とするために日頃からの連携強化に努める。

F. 事業所の 防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none">●地域の役割りを具体的に提示する必要がある。防災訓練に合わせ、事業所マニュアルを会議の場で提示できたら良い。●防災訓練の周知や参加依頼は地域において特定者のみとなっている●町内の防災訓練自体が実地されていない。近隣で実施している町内を調べる必要がある	<ul style="list-style-type: none">●法人の方針はあるが、事業所として地域に即した防災計画となるよう見直しを実施。内容は運営推進会議にも諮り決定する。●防災訓練に合わせての運営推進会議の開催。または、防災訓練の案内を提示し、参加見学の依頼をしていく。●災害時に頼りにされる事業所となるため地域のニーズを把握する。
--------------------	--	--	---	--